

太子町の幼小中一貫教育が目指すもの

子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、一人一人の可能性を最大限に伸ばすため太子町では幼稚園・小学校・中学校の学び・育ちを12年間の連続性のもとで捉え直し、状況に応じた小中一貫教育を進めます。



No.2

それら教育を通して、これからさらに加速する社会変化に対応する力として「非認知能力」に注目し、非認知能力の育成を重点的におこないます。

これまでの社会は、知識・技能といった「認知能力」が評価の基準となり、その知識や技能を身につければ社会で対応できると言われていました。

しかし、これからは社会や生活が急速に変化し、予測ができない時代（VUCAの時代）と言われています。その社会変化に対応する力として「非認知能力」が注目されています。現行の学習指導要領でも「学びに向かう力、人間性等」として非認知能力として取り上げられ、注目されている力です。

V olatility 変動性	U ncertainty 不確実性
C omplexity 複雑性	A mbiguity 曖昧性

認知能力も非認知能力も大切にする太子町の幼小中一貫教育

幼小中一貫教育の中心的なカリキュラム構成の一つが「非認知能力」をテーマとした取り組みです。令和4年8月に開催した太子町立小中学校園の全先生方対象の研修で、太子の子どもの良いところ・課題・義務教育後について欲しい力、そしてこれまでの教育実践で大切にされてきた「非認知能力」について考える機会を設けました。そこでの議論と前回の本通信でご協力をお願いした保護者アンケートの結果も交えて、幼小中一貫教育で育む「子ども像」「太子町で育む主な非認知能力」としてまとめました。

幼小中一貫教育で育む人

幼小中のつながりをもとに

豊かな人生とより良い社会を主体的につくるため

自ら考え、動き、相手を大切にできる人

非認知能力とは？



「非認知能力」とは、客観的な数値では測りにくい力と主に言われています。一方、テストを通して客観的な数値で測ることが可能な能力を「認知能力」といいます。

つついテストの点数など認知能力の部分を見てしまいがちですが、「認知能力と非認知能力はどちらが良いのか？」などはなく、それらは表裏一体の関係にあります。立派な桜の木があったとして、目で見えて美しいと感じる桜の花を認知能力（テストで測れる力）とすると、根の部分为非認知能力になります。根がきちんとしていなければ、立派な桜の花は咲きませんし、大きな台風が来たら倒れてしまうかもしれません。立派な花を咲かすには、しっかりとした根が必要になります。非認知能力がしっかりと育まれている子どもは様々な変化があったときでも、倒れず、置かれた場所で自分なりの花を咲かすことができる人になるのではないのでしょうか。

太子町で育む主な非認知能力

様々な非認知能力がある中で、太子町では主に3つのグループの力「自分を高める系の力・自分と向き合う系の力・つながる系の力」を軸に取り組みます。それらをわかりやすく細分化した以下の7つの力を「太子町で育む主な非認知能力」としてまとめました。次号からは各学校での取り組みを紹介します。

自分を高める系



目標を持つ力
(夢・目標を持つ)

挑む力
(やってみる・挑戦)

自分と向き合う系



あきらめない力
(粘り強さ)

自己調整力
(自分を調整する力)

つながる系



伝える力 (気持ち・意見を)

受け入れる力 (相手を)

協働する力

Start Line

太子町幼小中一貫教育の今をお伝えします

太子町教育委員会事務局通信

各校での非認知能力を育む実践！

太子町では夏季教職員研修を通して、非認知能力について幼小中すべての先生方で考えました。講師として岡山大学で非認知能力の研究をされている徳留宏紀さんにお越しいただきました。夏季研修で先生方は非認知能力を育む2学期の実践を計画されました。今回からは各学校での非認知能力を育む取り組みを紹介します！



No.3

つながる系の力を育む実践



伝える力（気持ち・意見を）

受け入れる力（相手を）

協働する力

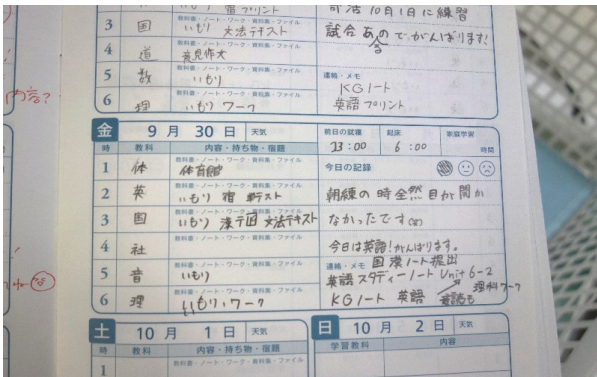


徳留宏紀さん

（太子町非認知能力アドバイザー）

昨年度まで大阪府公立中学校勤務今年度からは岡山大学大学院で非認知能力について研究。

★ 中1 日々の連絡帳を使って日記を！



◇学年：1年生 担任

◇工夫

2学期から、毎日の連絡帳の「今日の記録」の欄に、一日の感想（日記）を書くようにして、それに対して、担任のコメントを入れて返すギミックを取り入れた。毎日クラスの生徒全員と日記でコミュニケーションをとることをしている。

◇効果：生徒の気持ちの変化や、悩み事、直接には言いにくいことなど、コミュニケーションのツールとして、活用している。

日記を用いた実践は、自分を客観的に捉える力である『メタ認知』を育むことができます。そしてそのメタ認知こそ非認知能力の向上に欠かせないものです！



★ 3・4歳児クラス ダンスの振り付けをみんなで考えよう！

・3歳児は、1学期、農園で育てたプチトマトを喜んで収穫した経験を基に、「プチトマト」を、4歳児は子どもたちが好きな「恐竜・怪獣」をテーマにしたダンス曲を用意した。

・最初は曲の全体のイメージをつかめるようにと、元々あった振付を真似て楽しく踊ることを経験できるようにした。

・曲に慣れてきた頃、子どもたちが振付を考えてみることを提案した。

・一人一人の考えた振付を取り入れ、繋ぎ合わせ、全員が自信をもって取り組んでいけるようにした。



それぞれの考えを出し合う中で、自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりする経験ができた。

各校での非認知能力を育む実践！ 運動会を通じた実践！

磯長小 編



No.4



学校には様々な教育活動がありますが、その中でも運動会といった学校行事は特にその効果を数値化するのが難しい教育活動の一つです。しかし、「非認知能力」を高めることに大きく関係している教育活動の一つだといえます。

自分を高める系

目標を持つ力
(夢・目標を持つ)

挑む力
(やってみる・挑戦)



つながる系

伝える力 (気持ち・意見を)

受け入れる力 (相手を)

協働する力



本校では、10月2日の日曜日、青空の運動会日和の中、3年ぶりに1年生から6年生が運動場に一同そろっての運動会を行いました。運動会に向けて、各学年では練習を行います。ある学年では、「速く走って1番になるという目標も大切だけど、それ以上に、運動会に向けて、みんなに身につけてもらいたい力がある」という話をよくしていました。

各学年の運動会練習では、いろいろな工夫をして「非認知能力」を高めています。それは、運動会練習を始める前に、この時間自分は何を目標にして練習に臨むのかを考える時間をとるといったことをしていました。また、運動会練習が進んでくると、ダンスといった表現運動であれば、互いの学級の技をみあって、良いところやアドバイスをするとといった活動も行っていました。中には、子どもたちの中で、友だちとともに体の動きの確認をしたり、「コツ」を伝えたりしている様子もありました。

運動会当日、校長先生が開会式の中で「自分の力をだしきりましょう」「友だちをよく見てしっかり応援しましょう」と今日の2つのめあてを話してくださいました。そして、閉会式の中では、「今日の運動会もすばらしかったが、今まで3週間の練習をがんばったこともすばらしかった」「今日は家の人にいっぱいほめてもらいましょう」と運動会をまとめてくださいました。学校の教育活動のだけでなく、ご家庭のみな様の声掛けによっても子どもたちの「非認知能力」がさらに高まるものと思っています。

運動会を巻き起こした「すこ六」！練習の中で「心」も成長できましたね！



先日、御所に郡民会館のホールで開催され、高きまきびが参加されました。本校では、運動会練習のなかで「すこ六」の練習を行いました。一般参加の皆さん、ご来賓の皆様、ご声援をいただき、誠にありがとうございました。また、本校の子どもたちも、練習のなかで「心」も成長できました。練習の中で「心」も成長できましたね！

Table with 4 columns: 学年, 項目, 達成率, 備考. It lists various non-cognitive skills and their achievement rates for different grades.

学級通信やプリントを使って子どもが意識できるような工夫も！

体育大会など行事は、非認知能力向上のチャンスがたくさんあります。どの非認知能力を伸ばしたいかを意識して取り組むことで、質を上げることが可能です。日々成長する姿を楽しんでいきましょう！



徳留宏紀さん
(太子町非認知能力アドバイザー)

各校での非認知能力を育む実践！ 運動会を通じた実践！



No. 5

山田小編

自分を高める系



目標を持つ力
(夢・目標を持つ)

挑む力
(やってみる・挑戦)

つながる系



伝える力 (気持ち・意見を)
受け入れる力 (相手を)
協働する力



団体演技(応援団)

三年ぶりに開催という中で、応援団の児童が紅白に分かれ、グループで拍子やエール等を考えた。紅白のチームで休み時間に話し合いや練習を重ね、必要に応じて全体で話し合いや、応援合戦の見せあいをして、児童全体のために頑張っていた。

非認知能力向上において、異学年での交流は非常に効果的です。憧れとしての先輩の姿、仲間と交流し支え合う場面、これこそまさに成長できるきっかけなのです！

徳留宏紀さん (太子町非認知能力アドバイザー)

団体演技(ダンス)

5・6年生 団体演技で披露するダンスを有志で考え、全体に伝達し、完成をめざした。

3・4年生 これまでは教員から全体にダンスの内容を伝達していたが、今年度は、まずダンスリーダーに伝達した。ダンスリーダーを中心にいくつかのグループを作り、グループごとにダンスの完成をめざし、全体での完成につなげた。

